

イザヤ書 第40章 31節

「しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができる。走ってもたゆまず、歩いても疲れない。」

しかし、で始まるみことばにちからがある。直前には疲れがあり、つまずきがあり、倒れさえする。しかし、である。失望や絶望の域にさえ落ち込んだ者に届く、しかし、である。

しかし、の後に聞こえるみことばは、自分で立ち上がる精神力、気力、体力の話ではない。主を待ち望む者の話である。失望や絶望のなかで主を待ち望むことである。

倒れ込んでいる者に果たして、主を待ち望む心が残っているだろうか。その心さえ枯れ切っているのではないか。心が折れてしまっている。それだから、自分からの言葉ではなく、外からのみことばが響くのである。声さえ出せない者に、しかし、と外からの声が届くのである。

倒れ込んだ者に聞く耳が残っているはずだ。だから、外から響くみことばがある。聞こえたのは、「主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができる。走ってもたゆまず、歩いても疲れない。」失望や絶望の中にあるからこそ、そこでなお主を待ち望むことができる。絶望を超える主の物語が自分に始まる。